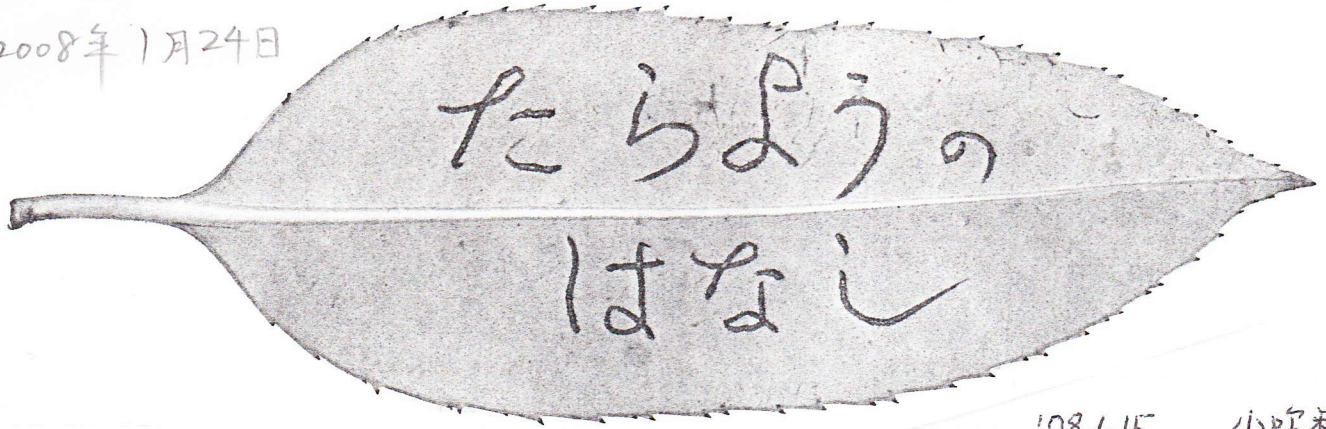


11058.

2008年1月24日



108.1.15 小吹和男

### モチノキ科

タラヨウ (多羅葉) *Ilex Latifolia* THUMB. 別名 <sup>もんつきしば</sup> <sup>のこぎりしば</sup>

雌雄異株の常緑高木で艶があって肉厚の葉は互生で辺縁に細かく鋭い鋸齒を具へ先が端が尖った長楕円形。春夏の頃葉腋に聚繖花序として多数の緑黄色花をつけ、秋冬期に小粒の紅色球形果を団集して美しい。用途としては、その樹皮によってトリモチを作る以外その肉厚の葉裏へツマヨウジ等で文字を書く遊びがあって「はがき」の語源ともいわれて仙台的塩竈神社ではがきとして実用される。又、タラヨウは郵便局の木とされており、その葉は切手も見たると実際にはがきとして配送される事が面白い。

さて、そこで語源の大切なポイントとなるタラとは何かを考へると誠に興味深い。

- ① 似た植物の名にタラノキがあるが、それはウコギ(五加木)科であって、ウコギやアケシヤツテ、タカツメ等の仲間である。
- ② なぜか、京都の社寺によく見かける。
- ③ 経文の中によく出る多羅から②との関連をさぐる。
- ④ 辞書を介して古代インド、中国西域、チベットの貝多羅経との関連を知る。
- ⑤ 貝多羅経(パイタラキョウ)とは、紙のなかった古代にヤシの乾燥葉へ鉄筆等で掻記された経文をいう。
- ⑥ そのヤシの品種は東南アジアの大形ヤシ、タラ樹で10mにもなる資源植物。又サンスクリット語の葉パトロー(Pattra)とが合して、貝多羅樹の中国名が出来、日本ではその樹形からオオギヤシと呼ばれる。
- ⑦ 文字を用紙代りとする葉へ掻記する用途の共通性から貝多羅樹にちなんで「多羅葉」と名付けられた。
- ⑧ 貝多羅経を見る。中京区三条木屋町の貝葉(ハイヨウ)書院さんでは、代々、黄檗山万福寺、鉄眼の一切経を始め文化財的経文の版元を交わっているお店。チベットやカンボジアからの古い貝多羅経を蔵されている。お店の名は当然、自ら貝多羅経に因んでいるが、一応、仏典を貝葉とよぶ例もある。
- ⑨ かつて「唐長安展」展示物中のAD853年、僧円珍(智証大師)が唐より持ち帰った「円珍入唐求法目錄」中に「天竺貝多樹」云々を登見して感激した事がある。

### カンボジアの貝多羅経



Handwritten text in a cursive style, likely related to the Buddhist sutras mentioned in the text above.

マンサク科

イスノキ

ディステリウム

ラケモスム

*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc. 異名 ヨシノキ ヒヨノキ

2、花柱

総状花をつける

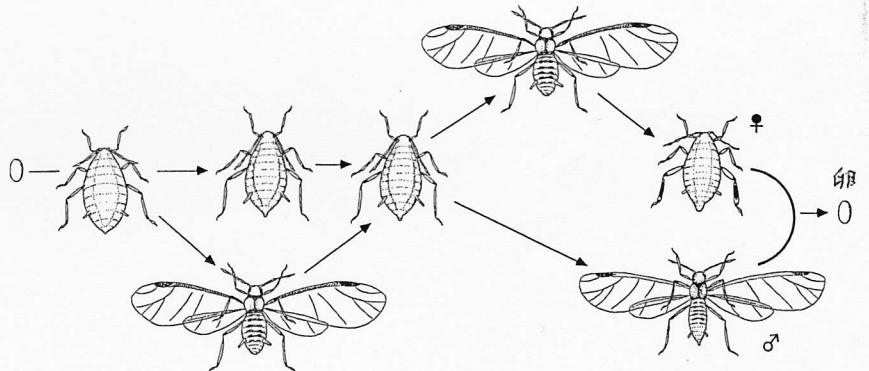
暗色で平滑な樹皮をもつ常緑高木で、高さ15~20のものあり。葉は有柄、互生、長さ5~8cm。革質全縁で、大小の虫エイ(虫コブ、ゴール)を多くつける。3~4月、葉腋に総状花序を出し、その上部は両性花、下部は雄花となる。花には花弁なく、雄蕊5~8、葯は紅色、萼片は3~6、外側に褐色星状毛をつける。蒴果は広卵形、黄褐色毛が密生。熟すと2裂して、黒色種子を出す。クニンを含む。材質は硬く、木目細かく、家具や櫛を作っていたの? クシノキ→ヨシノキと転じたともいわれる。

イスノキの樹液を吸うアブラムシによって大小多くのゴール生ずるが、なかでもイスノシアブラムシによるものは、茎5cmにもなる大型で、羽化幼虫の飛び出した穴を吹き鳴らす子供の遊具となるため、その音の印象からヒヨノキとも呼ばれる。又、そのゴールから飛び出す無数の羽化幼虫を見て、中国古人は蚊の樹と称したともいわれる。

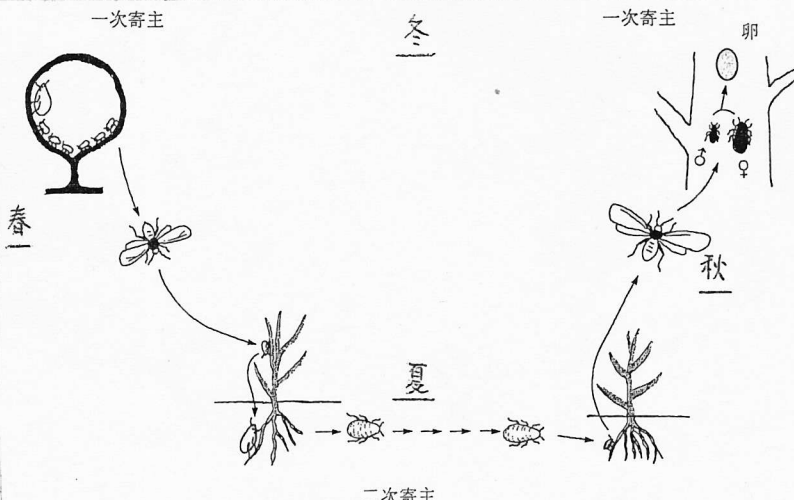
このアブラムシと植物によって合作されるゴールは、アブラムシ生殖用の住居でもあり、又、栄養提供者ともなり、アブラムシ体内に住む寄生共生細菌をめぐる互恵的な生命の活動は今、近代科学の進展著しいとはいえずとも、まだまだ深い自然界の淵をのぞく思いを与えてくれる。



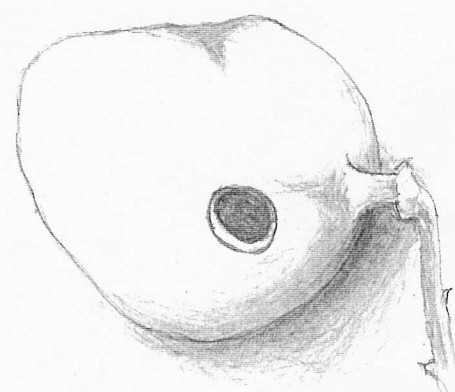
マキ 日本植物図鑑



アブラムシにみられる典型的な周期的単為生殖  
有性生殖は越冬卵を産出する前に行われる。♂；雄，♀；有性の卵性雌。



ワタムシ亜科アブラムシの典型的な生活史  
一次寄主につくられたゴールから出現する個体が二次寄主へ移動し、夏の間、二次寄主で単為生殖による世代を繰り返す。秋に、有翅型が出現し一次寄主にもどり、有性世代を産む。生態模式図は「アブラムシの生態学」石川統 編より



イスノシアブラムシのゴール 1:1 K.O